４．TOE/TOPの研鑽形態モデル例

実際には，さまざまな研鑽形態をどのように組み合わせて， どのようにして4年間の研鑽を積んだらよいかイメージすることは， なかなか困難だと思われます． そこで職種，年代，地域などいろいろな条件を想定して， 以下にさまざまなモデル例を通して異なる研鑽スタイルを紹介・提案しています． ご自身の職種・条件などに近いものだけでなく別の例もご参考いただきながら， ご自身に必要なCPD単位を計画的に取得できるよう，研鑽計画を立てる際に参考にしてください．

TOEのCPDモデル例 (4年間で200単位以上)

- 例－１(TOE)： コンサルタント技術者(30歳前後：TOEとして若手の想定)
- 例－２(TOE)： コンサルタント道路設計技術者(関係業務が少ない想定)
- 例－３(TOE)： 交通制御分野の技術者
- 例－４(TOE)： 交通警察技術職員
- 例－５(TOE)： 道路行政などに携わる技術職員その１
- 例－６(TOE)： 道路行政などに携わる技術職員その２

TOPのCPDモデル例 (4年間で150単位以上)

- 例－１(TOP)： コンサルタント技術者(20代)
- 例－２(TOP)： コンサルタント道路設計技術者(関係業務が少ない想定)
- 例－３(TOP)： 交通制御分野の技術者
- 例－４(TOP)： 交通警察技術職員
- 例－５(TOP)： 道路行政などに携わる技術職員その１
- 例－６(TOP)： 道路行政などに携わる技術職員その２

継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが， 実際には業務の都合などで毎年同じように単位を取得することは困難な場合も多いと思われます．

したがって，日常的な専門業務(D01)，自己学習やOJT受講(E01)， またTOEの場合はマネジメント等の研修(E02(1))とOJT指導(E03)， などを出来る限り有効に活用してください．

TOPの4年間で必要な150単位のうち最大で120単位まで， TOEの4年間が必要な200単位のうち最大で160単位まで， それぞれこうした日常的な業務や活動によって継続研鑽として認めることができます．

その上で，4年間のどこかで，能動的な「研鑽」を不足単位分だけ追加できれば 資格を更新することができるのです．

ぜひ，計画的に，積極的に研鑽を積むようにして下さい．

WEBシステムへの移行に伴い， すべての研鑽項目が**自己申請・自己管理**にもとづくこととなりました．

(一社)交通工学研究会が関連する行事など(研鑽機関＝Aのもの)についても， ご自分で申請，管理していただく必要がありますのでご注意ください．

ガイドライン目次へ ｜ 次（５章）へ ｜ ページTOPへもどる

例－１(TOE)　　若手コンサルタント技術者(30 歳前後：TOE として若手の想定)　　(目標 50 単位/年)

	課題項目		研鑽形態	研鑽内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	○○町バリアフリー交通計画 ○○地区事故対策検討業務 ○○交差点渋滞対策検討業務　など	250.0	H	0.1	**25.0**	**上限 10.0/年**	D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	技術士受験勉強	60.0	H	0.1	6.0	上限 10.0/年	E01(1)
4	技術	専門分野	組織内研修	技術士受験対策講座受講	30.0	H	0.1	3.0		E01(1)
5	一般	マネジメント	自己学習	土木学会「土木技術者の倫理」通読	10.0	H	0.1	1.0		E01(2)
6	一般	倫理	組織内研修	技術者倫理講習会受講	3.0	H	1.0	3.0	上限 10.0/年	E02
7	一般	マネジメント	外部講習会	ISO14001 講習会受講	3.0	H	1.0	3.0		E02
8	一般	専門/関連分野	OJT 指導	バリアフリー交通計画業務に関する OJT 指導	30.0	H	0.2	6.0	上限 10.0/年	E03[TOE]
				交差点容量計算組織内講習講師	5.0	H	0.2	1.0		E03[TOE]
				組織内の TOP 受験者の指導(5H×2 人)	10.0	H	0.2	2.0		E03[TOE]
9	技術	専門分野	講習会	道路交通○○シンポジウム[AB 協会](半日)	3.0	H	1.0	3		C01
10	技術	専門分野	講習会	道路交通○○講習会[BC 学会] (1 日)	7.0	H	1.0	7		C01
								65.0	合計(参考)	
								50.0	認定単位/年	

【例－１解説】

TOE の場合，業務経験(D01)の年間上限 10.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の各種研修(E02)の年間上限年 10.0 単位，OJT 指導(E03[TOE のみ])の年間上限 10.0 単位，以上合計の年間上限 45 単位がベースとなります（この例：40 単位）．この例では，他の学協会の実施するシンポジウムや講習会への参加により 50.0 単位/年となります．その結果，4 年間で 50.0×4 年＝200.0 単位となります．なお，自己学習 E01(1)には，直接の道路交通技術でなくとも，自動車技術，ソフトウェア技術，環境技術などさまざまな関連分野の講習会参加や書籍等による自己学習などを取り入れることもできます．

例－２(TOE)　　コンサルタント道路設計技術者の例(関係業務が少ない想定)　　(目標 50 単位/年)

	課題項目		CPD の形態	内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	県道○○線拡幅設計	60.0	H	0.1	**6.0**	**上限 10.0/年**	D01
				国道○○線延伸部基本計画	35.0	H	0.1	**3.5**		D01
				○○交差点交通量調査	15.0	H	0.1	**1.5**		D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	土木施工・土木学会誌による学習(2H×12 月)	24.0	H	0.1	2.4	上限 10.0/年	E01(1)
				TDM 施策に関する事例学習	20.0	H	0.1	2.0		E01(1)
				Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ「社会基盤の長寿命化」	2.0	H	0.1	0.2		E01(1)
4	一般	環境	自己学習	Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ「地球環境」	2.0	H	0.1	0.2		E01(1)
5	一般	マネジメント	自己学習	Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ”安全性管理”を学習	2.0	H	0.1	0.2		E01(2)
6	一般	倫理	自己学習	土木学会「土木技術者の倫理」通読	10.0	H	0.1	1.0		E01(2)
7	一般	マネジメント	講習会	ＶＥ(Value Engineer)リーダー講習受講	4.0	H	1.0	4.0	上限 10.0/年	E02
8	一般	専門/関連分野	OJT 指導	組織内の TOP 受験者の指導(5H×1 人)	5.0	H	0.2	1.0	上限 10.0/年	E03[TOE]
				交通需要予測手法に関する組織内勉強会指導	5.0	H	0.2	1.0		E03[TOE]
				交通量調査技術に関する OJT 指導	20.0	H	0.2	4.0		E03[TOE]
9	技術	専門分野	講習会	土木計画学研究発表会(9 時～17 時)聴講	8.0	H	1.0	8		C01(1)
10	技術	専門分野	講習会	交通工学研究発表会(2 日)に参加	14.0	H	4.0	56		A01(2)
11	技術	専門分野	講習会	交通工学研究会主催のシンポジウム受講(半日)	4.0	H	3.0	12		A01(5)
								108.0	合計(参考)	
								107.0	認定単位/年	

【例－２解説】

TOE の場合，業務経験(D01)の年間上限 10.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の各種研修(E02)の年間上限年 10.0 単位，OJT 指導(E03[TOE のみ])の年間上限 10.0 単位，以上合計の年間上限 45 単位がベースですが，関連業務が少ないと単位数は上限より大きく下回ります(この例：31.0 単位)．この例では，関連学協会の講習会等（土木学会・土木計画学研究発表会以外にも，日本道路会議，ITS シンポジウムなどが考えられます）へ参加，交通工学研究発表会や交通工学研究会主催のシンポジウム等への参加，という研鑽を行うことで 107 単位/年が認定されます．その結果，他の 3 年間は業務経験，自己学習，各種研修および OJT 指導のみの 31.0 単位/年だったとしても，4 年間で 107.0＋31.0＋31.0＋31.0＝200.0 単位となります．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－３(TOE)　　交通制御分野の技術者　　(目標 50 単位/年)

	課題項目		研鑽形態	研鑽内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	交通管制システム関連業務	180.0	H	0.1	**18.0**	**上限 10.0/年**	D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	交通制御技術に関する技術文献の自己学習	60.0	H	0.1	6.0	上限 10.0/年	E01(1)
5	一般	マネジメント	自己学習	技術者倫理に関する自己学習(3H×12 月)	36.0	H	0.1	3.6		E01(2)
7	一般	倫理	組織内研修	技術者倫理講習会受講	5.0	H	1.0	5.0	上限 10.0/年	E02
8	一般	マネジメント	講習会	ISO14001 講習会受講	3.0	H	1.0	3.0		E02
6	一般	専門/関連分野	OJT 指導	組織内の TOP 受験者の指導(5H×1 人)	5.0	H	0.2	1.0	上限 10.0/年	E03[TOE]
				交通制御技術に関する OJT 指導	30.0	H	0.2	6.0		E03[TOE]
9	技術	専門分野	講習会	交通管制に関わる講習会(関連協会)受講(1 日)	7.5	H	1.0	8		C01
10	技術	専門分野	講習会	交通工学講習会(9 時～17 時)受講	8.0	H	3.0	24		A01(3)
11	技術	専門分野	講習会	交通工学研究会主催のシンポジウム受講(半日)	4.0	H	3.0	12		A01(5)
								91.6	合計(参考)	
								83.6	認定単位/年	

【例－３解説】

TOE の場合，業務経験(D01)の年間上限 10.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の各種研修(E02)の年間上限年 10.0 単位，OJT 指導(E03[TOE のみ])の年間上限 10.0 単位，以上合計の年間上限 45 単位がベースとなります（この例：39.6 単位）．この例では，関連協会(たとえば日本交通管理技術協会，UTMS 協会など)の講習会への参加，交通工学講習会や関連シンポジウムの参加，という研鑽により 83.1 単位/年となります．その結果，他の 3 年間は業務経験，自己学習，各種研修および OJT 指導のみの 39.6 単位/年だったとしても，4 年間で 83.1＋39.6＋39.6＋39.6＝201.9 単位となり 200 単位を超えます．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－４(TOE)　　交通警察技術職員　　(目標 50 単位/年)

	課題項目		研鑽形態	研鑽内容	実時間等	単位	重み	CPD		
1	技術	専門分野	業務経験	路上駐車規制見直し検討などの業務	110.0	H	0.1	**11.0**	**上限 10.0/年**	D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	技術雑誌による学習(2H×12 月)	24.0	H	0.1	2.4	上限 10.0/年	E01(1)
				交通規制・運用技術に関する文献学習	30.0	H	0.1	3.0		E01(1)
4	一般	マネジメント	自己学習	技術者倫理に関する自己学習(3H×12 月)	36.0	H	0.1	3.6		E01(2)
5	一般	マネジメント	組織内研修	○○管理職研修受講(7.5H×1 日)	15.0	H	0.1	1.5	上限 10.0/年	E02
6	一般	専門/関連分野	OJT 指導	組織内の TOP 受験者の指導(5H×1 人)	5.0	H	0.2	**1.0**	**上限 10.0/年**	E03[TOE]
				交差点交通安全対策に関する OJT 指導	30.0	H	0.2	**6.0**		E03[TOE]
				信号制御技術に関する OJT 指導	30.0	H	0.2	**6.0**		E03[TOE]
7	技術	専門分野	講習会	交通管制に関わる講習会(関連協会)受講(1 日)	7.0	H	1.0	7		C01
8	技術	専門分野	講習会	交通関連シンポジウム(関連協会)受講(半日)	4.0	H	1.0	4		C01
9	技術	専門分野	講習会	交通工学研究会主催のシンポジウム受講(1 日)	8.0	H	3.0	24		A01(3)
10	技術	専門分野	講習会	交通工学講習会(9 時～17 時)受講	8.0	H	3.0	24		A01(3)
								98.5	合計(参考)	
								94.5	認定 CPD 単位値	

【例－４解説】

TOE の場合，業務経験(D01)の年間上限 10.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の各種研修(E02)の年間上限年 10.0 単位，OJT 指導(E03)[TOE のみ]の年間上限 10.0 単位，以上合計の年間上限 45 単位がベースですが，この例では 35.5 単位にしかなりません．この例では，関連協会(たとえば日本交通管理技術協会，UTMS 協会など)の講習会への参加，交通工学講習会や交通工学研究会主催のシンポジウム等への参加，という研鑽により 94.5 単位/年となります．その結果，他の 3 年間は業務経験，自己学習，各種研修および技術指導のみの 35.5 単位/年だったとしても，4 年間で 94.5＋35.5＋35.5＋35.5＝201.0 単位となり 200 単位を超えます．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－５(TOE)　　道路行政などに携わる技術職員その１　　(50 単位/年)

	課題項目		研鑽形態	研鑽内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	道路交通安全施策策定業務	80.0	H	0.1	8.0	上限 10.0/年	D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	技術士受験勉強	60.0	H	0.1	6.0	上限 10.0/年	E01(1)
4	一般	倫理	外部研修	技術者倫理講習会受講	5.0	H	1.0	5.0	上限 10.0/年	E02
5	一般	マネジメント	外部研修	国交大学校管理職研修受講(7.5H×2 日)	15.0	H	0.1	1.5		E02
6	技術	専門分野	OJT 指導	組織内の TOP 受験者の指導(5H×1 人)	5.0	H	0.2	1.0	上限 10.0/年	E03[TOE]
				道路交通安全事業に関する OJT 指導	30.0	H	0.2	6.0		E03[TOE]
7	技術	専門分野	外部研修	国交大学校「道路計画(専門)」講座受講	30.0	H	1.0	30		C01
8	技術	専門分野	講習会	交通工学講習会(9 時～17 時)受講	8.0	H	3.0	24		A01(3)
9	技術	専門分野	講習会	交通工学研究会主催のシンポジウム受講(1 日)	7.0	H	3.0	21		A01(5)
			32.5	205				107.5	合計(参考)	
								107.5	認定単位/年	

【例－５解説】

TOE の場合，業務経験(D01)の年間上限 10.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の各種研修(E02)の年間上限年 10.0 単位，OJT 指導(E03)[TOE のみ]の年間上限 10.0 単位，以上合計の年間上限 45 単位がベースです（この例：32.5 単位）．この例では，専門分野の外部研修への参加，交通工学講習会への参加，交通工学研究会のシンポジウム等への参加，という研鑽により 107.5 単位/年になっています．その結果，他の 3 年間は業務経験，自己学習，各種研修，OJT 指導のみの 32.5 単位/年だったとしても，4 年間で 107.5＋32.5＋32.5＋32.5＝205.0 単位となり 200 単位を超えます．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－６(TOE)　　道路行政などに携わる技術職員その２　　(目標 50 単位/年)

	課題項目		CPD の形態	内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	○○地域渋滞対策協議会運営業務	60.0	H	0.1	**6.0**	**上限 10.0/年**	D01
				県道○○線拡幅事業設計業務	10.0	H	0.1	**1.0**		D01
				県道○○線延伸事業予備調査業務	10.0	H	0.1	**1.0**		D01
				○○交差点交通事故対策検討業務	40.0	H	0.1	**4.0**		D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	土木施工・土木学会誌による学習(2H×12 月)	24.0	H	0.1	2.4	上限 10.0/年	E01(1)
4	一般	環境	自己学習	Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ「地球環境」	2.0	H	0.1	0.2		E01(2)
5	一般	マネジメント	自己学習	Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ”安全性管理”を学習	4.0	H	0.1	0.4		E01(2)
6	一般	倫理	自己学習	土木学会「土木技術者の倫理」通読	10.0	H	0.1	1.0		E01(2)
7	一般	マネジメント	講習会	ＶＥ(Value Engineer)リーダー講習受講	4.0	H	1.0	**4.0**	**上限 10.0/年**	E02
8	一般	マネジメント	外部研修	○○管理職研修受講(7.5H×1 日)	7.5	H	1.0	**7.5**		E02
9	技術	専門分野	OJT 指導	組織内の TOP 受験者の指導(5H×1 人)	5.0	H	0.2	1.0	上限 10.0/年	E03[TOE]
				道路計画・設計に関する OJT 指導	30.0	H	0.2	6.0		E03[TOE]
10	技術	専門分野	講習会	交通工学研究発表会聴講(2 日)	14.0	H	4.0	56		A01(2)
								95.5	合計(参考)	
								92.0	認定単位/年	

【例－６解説】

TOE の場合，業務経験(D01)の年間上限 10.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の各種研修(E02)の年間上限年 10.0 単位，OJT 指導(E03)[TOE のみ]の年間上限 10.0 単位，以上合計の年間上限 45 単位がベースです（この例：36.0 単位）．この例では，交通工学研究発表会へ 2 日間参加することにより 92.0 単位/年になっています．その結果，他の 3 年間は業務経験，自己学習，各種研修，OJT 指導のみの 36.0 単位/年だっととしても，4 年間で 92.0＋36.0＋36.0＋36.0＝200.0 単位となり，200 単位に達します．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－１(TOP)　　若手コンサルタント技術者(20 代)　　(目標 40 単位/年)

	課題項目		研鑽形態	研鑽内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	○○町バリアフリー交通計画 国道○○区間事故対策検討業務 県道○○交差点渋滞対策検討業務　など	250.0	H	0.1	**25.0**	**上限 20.0/年**	D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	技術士・RCCM 受験勉強	60.0	H	0.1	6.0	上限 10.0/年	E01(1)
4	技術	専門分野	組織内研修	技術士受験対策講座受講	30.0	H	0.1	3.0		E01(3)
6	一般	倫理	組織内研修	技術者倫理講習会受講	3.0	H	1.0	3.0	上限 10.0/年	E02
5	技術	専門分野	外部講習会	道路技術講習会[日本道路協会](半日)	3.0	H	1.0	3		C01
								45.0	合計(参考)	
								40.0	認定単位/年	

【例－１解説】

TOP の場合，業務経験(D01)の年間上限 20.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の各種研修(E02)の年間上限 10.0 単位，合計年間上限 45.0 単位がベースとなります（この例：37.0 単位/年）．この例では，これに加えて，道路交通技術に関する関連協会などの講習会に毎年１回参加(上記以外にも，道路保全技術センター「道の駅」講習会，建設コンサルタント協会「住民参加」セミナー，ITS-Japan「ITS シンポジウム」など，様々な行事があります)に参加することで，年間 40.0 単位，４年間で 160.0 単位となり 150 単位を超えます.

例－２(TOP)　　コンサルタント道路設計技術者の例(関係業務が少ない想定)　　(目標 40 単位/年)

	課題項目		CPD の形態	内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	県道○○線拡幅設計	60.0	H	0.1	6.0	上限 20.0/年	D01
				国道○○線延伸部基本計画	35.0	H	0.1	3.5		D01
				○○交差点交通量調査	15.0	H	0.1	1.5		D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	土木施工・土木学会誌による学習(2H×12 月)	24.0	H	0.1	2.4	上限 10.0/年	E01(1)
				Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ「社会基盤の長寿命化」	2.0	H	0.1	0.2		E01(1)
4	一般	環境	自己学習	Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ「地球環境」	2.0	H	0.1	0.2		E01(1)
5	一般	マネジメント	自己学習	Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ”安全性管理”を学習	2.0	H	0.1	0.2		E01(2)
6	一般	倫理	自己学習	土木学会「土木技術者の倫理」通読	10.0	H	0.1	1.0		E01(2)
7	技術	専門分野	講習会	「道路交通技術必携」講習会受講(2 日)	14.0	H	5.0	70		A01(1)
								90.0	合計(参考)	
								90.0	認定単位/年	

【例－２解説】

TOP の場合，業務経験(D01)の年間上限 20.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の各種研修(E02)の年間上限 10.0 単位，合計年間上限 45.0 単位がベースとなりますが，関連業務が少ないと単位数は上限より大きく下回ります（この例：20 単位/年）．この例では，これに「道路交通技術必携」講習会への参加により 90.0 単位/年となっています．その結果，他の 3 年間は業務経験・自己学習のみの 20.0 単位/年だったとしても，4 年間で 90.0＋20.0＋20.0＋20.0＝150.0 単位となります．「道路交通技術必携」講習会には 4 年間のうちどこかで単位取得すればいいですが，更新直前にこの講習会に参加すれば最新の知識を得ることができます．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－３(TOP)　　交通制御分野の技術者　　(目標 40 単位/年)

	課題項目		研鑽形態	研鑽内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	交通管制システム関連業務	210.0	H	0.1	**21.0**	**上限 20.0/年**	D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	交通制御技術に関する技術文献の自己学習	60.0	H	0.1	6.0	上限 10.0/年	E01(1)
4	一般	倫理	組織内研修	技術者倫理講習会受講	5.0	H	1.0	5.0	上限 10.0/年	E02
5	技術	専門分野	講習会	交通管制に関わる講習会(関連協会)受講(1 日)	7.5	H	1.0	8		C01
6	技術	専門分野	講習会	交通工学研究会主催のシンポジウム受講(1 日)	7.0	H	3.0	21		A01(5)
								66.0	合計(参考)	
								65.0	認定単位/年	

【例－３解説】

TOP の場合，業務経験(D01)の年間上限 20.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，道路交通技術以外の研修等の年間上限 10.0 単位，合計年間上限 45.0 単位がベースとなります（この例：31.0 単位/年）．この例では，これに，関連協会(たとえば日本交通管理技術協会，UTMS 協会など)の講習会への参加，交通工学研究会主催のシンポジウム等への参加，という研鑽を積むことで 64.5 単位/年となります．その結果，他の 3 年間は業務経験と自己学習と各種研修のみの 31.0 単位/年だったとしても，4 年間で 64.5＋31.0＋31.0＋31.0＝157.5 単位となり 150 単位を超えます．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－４(TOP)　　交通警察技術職員　　(目標 40 単位/年)

	課題項目		研鑽形態	研鑽内容	実時間等	単位	重み	CPD		
1	技術	専門分野	業務経験	路上駐車規制見直しなどの検討業務	180.0	H	0.1	18.0	上限 20.0/年	D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	技術雑誌による自己学習(4H×12 月)	48.0	H	0.1	4.8	上限 10.0/年	E01(1)
5	一般	倫理	自己学習	技術者倫理に関する自己学習(2H×12 月)	24.0	H	0.1	2.4		E01(2)
6	技術	専門分野	講習会	交通管制に関わる講習会(関連協会)受講(1 日)	7.5	H	1.0	8		C01
8	技術	専門分野	講習会	交通工学講習会(9 時～17 時)受講	8.0	H	3.0	24		A01(3)
								62.2	合計(参考)	
								62.2	認定単位/年	

【例－４解説】

TOP の場合，業務経験(D01)の年間上限 20.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，合計年間上限 35.0 単位がベースです（この例では 30.2 単位/年）．この例では，関連協会(たとえば日本交通管理技術協会，UTMS 協会など)の講習会への参加，交通工学講習会への参加，という研鑽を積むことで 61.7 単位/年となっています．その結果，他の 3 年間は業務経験や自己学習のみの 32.0 単位/年だったとしても，4 年間で 61.7＋30.2＋30.2＋30.2＝152.3 単位となり 150 単位を超えます．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－５(TOP)　　道路行政などに携わる技術職員その１　　(目標 40 単位/年)

	課題項目		研鑽形態	研鑽内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	道路交通安全施策策定業務	80.0	H	0.1	8.0	上限 20.0/年	D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	技術士受験勉強	60.0	H	0.1	6.0	上限 10.0/年	E01(1)
4	一般	倫理	外部研修	技術者倫理講習会受講	5.0	H	1.0	5.0	上限 10.0/年	E02
5	技術	専門分野	外部研修	国交大学校「道路計画(一般)」講座受講	30.0	H	1.0	30		C01
6	技術	専門分野	講習会	交通工学講習会(9 時～17 時)受講	8.0	H	3.0	24		A01(3)
								78.0	合計(参考)	
								78.0	認定単位/年	

【例－５解説】

TOP の場合，業務経験(D01)の年間上限 20.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，合計年間上限 35.0 単位がベースですが，この例では 19.0 単位/年にしかなりません．この例では，組織内倫理講習会への参加，専門分野の外部研修への参加，交通工学講習会への参加，という研鑽を積むことで 78.0 単位/年となっています．その結果，他の 3 年間は業務経験や自己学習のみの 24.0 単位/年だったとしても，4 年間で 78.0＋24.0＋24.0＋24.0＝150.0 単位となり 150 単位に達します．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．

例－６(TOP)　　道路行政などに携わる技術職員その２　　(目標 40 単位/年)

	課題項目		CPD の形態	内容	実時間等	単位	重み	CPD	備考	記号番号
1	技術	専門分野	業務経験	県道○○線拡幅事業設計業務	40.0	H	0.1	4.0	上限 20.0/年	D01
				県道○○線延伸事業予備調査業務	40.0	H	0.1	4.0		D01
				○○交差点交通事故対策検討業務	40.0	H	0.1	4.0		D01
2	技術	専門分野	「交通工学」	「交通工学」の購読による学習 [※個人会員でも自己申請して下さい]				5	5/年	A09
3	技術	専門分野	自己学習	土木施工・土木学会誌による学習(2H×12 月)	24.0	H	0.1	2.4	上限 10.0/年	E01(1)
4	一般	環境	自己学習	Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ「地球環境」	2.0	H	0.1	0.2		E01(1)
5	一般	マネジメント	自己学習	Web ﾗｰﾆﾝｸﾞ”安全性管理”を学習	4.0	H	0.1	0.4		E01(2)
6	一般	倫理	外部研修	技術者倫理講習会受講	5.0	H	1.0	5.0	上限 10.0/年	E02
7	技術	専門分野	講習会	交通○○に関する講習会(土木学会)受講(1 日)	7.0	H	1.0	7		C01
8	技術	専門分野	講習会	交通工学講習会(9 時～17 時)受講	8.0	H	3.0	24		A01(3)
9	技術	専門分野	講習会	交通工学研究会主催のシンポジウム受講(1 日)	7.0	H	3.0	21		A01(5)
								77.0	合計(参考)	
								77.0	認定単位/年	

【例－６解説】

TOP の場合，業務経験(D01)の年間上限 20.0 単位，機関紙購読(A09)5.0 単位，自己学習等(E01)の年間上限 10.0 単位，合計年間上限 35.0 単位がベースですが，この例では 20.0 単位/年にしかなりません．この例では，部局内倫理講習会への参加，外部技術講習会への参加，交通工学講習会への参加，交通工学研究会主催のシンポジウム等への参加，という研鑽を積むことで 77.0 単位/年となっています．その結果，他の 3 年間はベースの 25.0 単位/年だっとしても，4 年間で 77.0＋25.0＋25.0＋25.0＝152.0 単位となり 150 単位を超過します．継続研鑽は毎年ほぼ均等に行うことが理想ですが，この例のように 4 年間で必要単位に達すれば更新の要件は満たします．